



化学会発

第4回 CTO サミット

『企業経営・研究開発におけるサステナビリティ戦略』開催報告

産学交流委員会

はじめに

日本化学会産学交流委員会が企画する「第4回 CTO サミット」を、7月31日に開催いたしました。

本企画では、「企業経営・研究開発におけるサステナビリティ戦略」をテーマに掲げ、化学系企業のCTOクラスの方々ならびに経済産業省のキーパーソンをお招きし、各社および経済産業省における取り組みのご紹介とパネル討論を実施いたしました。

ご登壇いただいたのは、有賀利郎氏(DIC 株式会社)、伊藤洋士氏(富士フィルム株式会社)、横田玄氏(関西ペイント株式会社)、吉村裕介氏(コニカミノルタ株式会社)(社名五十音順)、ならびに経済産業省 製造産業局 素材産業課 革新素材室長の山田純市氏です。

開催は二部構成とし、森川宏平日本化学会会長による開会挨拶および開催趣旨の説明の後、第一部では現地会場とオンラインを併用したハイブリッド形式にて、各社および経済産業省のサステナビリティ戦略や取り組みについて、それぞれ約15分間ご講演いただきました。

第二部では、より踏み込んだ議論を促進するため、昨年に引き続き「チャタムハウスルール」*を適用し、現地参加者限定のクロウズ形式でパネル討論を実施

第4回 CTO サミットポスター

いたしました。参加者同士による率直かつ活発な意見交換が行われ、企業の垣根を越えた有意義な対話の場となりました。

開催趣旨

気候変動への対応、資源循環の推進、エネルギー転換をはじめとする社会課題は、人類共通の挑戦であると同時に、企業の持続的成長を左右する重要な経営課題となっています。こうした課題に対して真に実効性のある解決策を生み出すためには、個社の枠を超えた知の結集と、産業界・行政による継続的な対話が不可欠です。

本CTOサミットは、企業の技術経営を担うリーダーが一堂に会し、それぞれの経験や課題認識を共有するとともに、企業の枠を超えた対話を通じて相互理解

を深め、新たな価値創出の可能性を探求する場として開催いたしました。中でも今回のテーマである「サステナビリティ」は、もはや理念ではなく、企業経営および研究開発の方向性を左右する重要な戦略課題となっています。本サミットでは、企業のCTO・研究開発責任者の視点から、持続可能な社会の実現に向けた技術と経営の在り方について議論を深めることを目的といたしました。

第一部

第一部は、会場参加とオンライン参加を組み合わせたハイブリッド形式にて開催し、総勢121名の皆様にご参加いただきました。

本セッションでは、各登壇者より、各社におけるサステナビリティ戦略への取り組みについて、お一人あたり約15分間にわたりご講演いただきました。各社が推進する先進的な技術開発や戦略的施策が紹介され、サステナビリティを経営戦略および研究開発活動にどのように組み込んでいるかについて、多くの示唆が共有されました。参加者にとっても、有



現地の様子

* 当該会議で得られた情報を利用できるが、その情報の発言者やその他の参加者の身元および所属に関して秘匿する（明示的にも黙示的にも明らかにしない）義務を負うというルール。

益な知見を得る貴重な機会となったものと考えております。

また、セッション終盤には、経済産業省の山田氏をお迎えし、政策的視点からご講演を賜りました。政府が推進するサステナビリティ関連施策の方向性や、産業界との連携の重要性についてご説明いただき、企業の取り組みを社会全体の動きの中で捉える上で、多くの示唆を得る機会となりました。

なお、質疑応答は第二部にて実施し、各講演内容を踏まえながら、参加企業が直面する課題や今後の方向性について、多角的かつ実践的な議論を深める機会といたしました。

第二部

第二部では、第一部の講演内容を踏まえ、「サステナビリティを経営および研究開発戦略へどのように実装していくべきか」をテーマに、登壇者によるパネルディスカッションを実施いたしました。

ディスカッションでは、各社が直面する課題や取り組みの進捗状況、技術開発と事業化を推進する上での障壁、さらには人材育成や組織変革といった幅広い論点について活発な意見交換が行われました。

また、現地参加者から寄せられた質問に対して登壇者が見解を述べることで、講演内容をさらに深掘りし、サステナビリティを企業価値向上や競争力強化へと結び付けるための具体的な視点について理解を深める機会となりました。



現地の様子

とりわけ、サステナビリティは社会から求められる責務にとどまらず、新たな成長機会の創出と持続的な企業価値向上を実現するための重要な経営課題であるとの認識が共有されました。加えて、サステナビリティの実現を支える基盤としてのエネルギー政策の方向性とその重要性についても、活発かつ建設的な議論が交わされました。

会場には29名の参加者が集い、質疑応答では多くの質問や意見が寄せられ、終了予定時刻に至るまで議論が尽きることなく、本テーマに対する参加者の高い関心と問題意識が示されました。

本ディスカッション終了後、日本化学会常務理事である鈴木慎一氏より閉会のご挨拶を賜り、盛況のうちに第4回CTOサミットは幕を閉じました。

第一部の講演と第二部のパネルディスカッションを通じて、企業、行政、そして社会が共有する課題認識への理解を深めるとともに、持続可能な社会の実現に向けた新たな連携の可能性を見いだすことができました。本CTOサミットが、今



サミット終了後の名刺交換（上下）

後の技術革新と社会価値創出に向けた継続的な対話と共創の契機となることを期待しております。

おわりに

最後に、本サミットにご登壇いただきましたパネリストの皆様、ならびに現地およびオンラインにてご参加いただきました皆様に、心より御礼申し上げます。

また、本サミットの開催にあたり、企画・準備から当日の運営に至るまで多大なるご尽力を賜りました日本化学会事務局の皆様に対し、深甚なる感謝の意を表します。

【住田康隆（産学交流委員長）】

© 2026 The Chemical Society of Japan